

# 令和3年第10回定例教育委員会会議録

1. 開催日時 令和3年10月20日(水)  
午後3時～午後4時31分
2. 開催場所 柏原市教育委員会 会議室
3. 出席した委員  
教 育 長 新 子 寿 一  
教育長職務代理 山 崎 裕 行  
委 員 田 中 保 和  
委 員 近 藤 温 子  
委 員 西 村 弥 生 子
4. 出席した職員  
教 育 部 長 福 島 潔  
教 育 監 中 平 好 美  
社 会 教 育 課 長 北 西 浩 二  
次 長 兼 指 導 課 長 石 田 智  
ス ポ ー ツ 推 進 課 磯 部 賢 二  
教 育 総 務 課 長 栗 田 聖 子  
事 務 局 教 育 総 務 課 井 上 敦
5. 議事案件  
議案第34号 柏原市教育委員会表彰について  
  
議案第35号 柏原市生涯学習推進計画策定委員の委嘱について  
  
議案第36号 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の公表について  
  
議案第37号 令和3年度すくすくウォッチの結果の公表内容について  
  
議案第38号 柏原市図書館協議会委員の任命について
6. 報告事項
7. 会議録の承認及び会議の要旨  
新子教育長： 定刻となりましたので、令和3年第10回定例教育委員会会議を開会します。

本日の会議録署名委員は、山崎委員です。よろしくお願ひします。次に、事前に送付させていただきますので、ご意見等ございませんか。

委員全員： なし。

新子教育長： それでは、本日の議事に入ります。本日は議案が5件出ております。

どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、議案第34号について、教育総務課栗田課長より説明をお願いします。

栗田課長： ご説明申し上げます。議案第34号柏原市教育委員会表彰についてでございます。10月5日に表彰審査委員会が開催されました。被表彰者については別紙資料の通りでございます。教育功労賞1名。社会教育功労賞は13名。文化・芸術功労賞は1名。体育・スポーツ奨励賞は2名と1団体でございます。ご承認賜りますようお願いいたします。

新子教育長： 今説明がありました。かなり時間をかけて審査いただきました。去年は式典がコロナで開催できませんでしたが、今年は予定どおりということで。ご質問等ございませんでしょうか。

新子教育長： なければ議案第34号は原案の通り承認としてよろしいでしょうか。

委員全員： 異議なし

新子教育長： それでは、議案第34号柏原市教育委員会表彰については原案の通り承認いたします。つづきまして議案第35号について社会教育課北西課長から説明をお願いします。

北西課長： 議案第35号柏原市生涯学習推進計画策定委員の委嘱についてでございます。次頁をお開きください。提案の理由ですが、平成24年3月に10年間を計画の期間として策定した、柏原市生涯学習推進計画が令和3年度で10年目の最終年度となることから、次期の計画を策定するにあたり、新たな委員を委嘱する必要があるため、柏原市生涯学習推進計画策定委員会規則第2条第2項の規定により本案を提出するものでございます。新たな委員予定者については3ページ柏原市生涯学習推進計画策定委員会委員委嘱予定者名簿のとおりでございます。なお、任期は令和3年11月5日から令和4年3月31日まででございます。なお、ただ今の議会で前回定例会にてご同意いただきました条例改正について審議中でございます。令和3年11月5日が本会議最終日でございますので任期は11月5日からとしております。ご審議賜りますようお願いいたします。

新子教育長： 今説明がありました。ご質問等ありませんでしょうか。

委員全員： なし

新子教育長： それでは、議案第35号柏原市生涯学習推進計画策定委員の委嘱については原案の通り承認いたします。続きまして、議案第36号について指導課石田次長から説明をお願いします。

石田次長： 議案第36号令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の公表内容についてでございます。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたので、今回は2年ぶりの調査となっております。そのため昨年度との比較という分析ができなくなっていますことを最初に申し上げておきます。まず表紙をめくった1ページには本調査の概要を示しております。調査目的及び調査対象学年はこれまでと変わりはありません。調査

内容につきましては、前回の調査より教科に関する調査のA問題及びB問題の区別がなくなり、一本化されております。なお調査問題全体につきましては、下に国立教育政策研究所のホームページのある以下のURLに掲載されています。

2ページをご覧ください。まず全体の平均正答率といたしましては、小学校は国語・算数ともに全国及び大阪府を上回りました。しかし反対に中学校は、国語・数学ともに全国及び大阪府を下回っております。過去5年間、正確に言いますと6年間になりますが、全国の平均正答率を1として表した値で全国と比べて推移を見てみますと、小学校のグラフは右上がりであり、本年度は全国を超え、着実に上昇傾向が見えます。中学校は前回改善が見えていたのですが、本年度の平均正答率は過去4回のどれよりも低いという結果でした。同一児童生徒集団による経年比較を見ますと、平成26年度から平成31年度までは、小学校時に比べ中学校時での伸びが見られたのですが、本年度は平成30年の小学校6年次より全国比の値が低くなっていることがわかります。

続く3ページは、正答率40%以下及び80%以上の児童生徒の割合を、全国の平均正答率を1として表した値で全国と比べて推移を見てみますと、小学校については、正答率40%以下の児童はグラフのとおり右下がりの減少傾向であり全国を下回っています。また正答率80%以上についても、前回よりわずかに減りましたが全体的には増加傾向にあると言えます。中学校については、平成29年度からの前回までの3年間は良い傾向だったのですが、本年度は過去4回と比較して最も正答率40%以下が多く、80%以上が少ないという結果でした。同一児童生徒集団での経年比較で見ましても、平成26年度以降3年間は、わずかであっても中学校3年生になってから40%以下は減少し、80%以上は増加していたのですが、本年度は小学校6年次である平成30年度に比べ、40%以下が増加し、80%以上が減少していることがわかります。このように今回の調査では総じて中学校での課題が大きく見られる結果となりました。

4ページからは調査問題ごとの結果になります。まず小学校国語についてですが、学習指導要領の内容の「読むこと」が全国より1%低かったこと以外はすべて全国と同値以上で、大阪府を上回っています。中でも学習指導要領の内容の「書くこと」と記述式の問題形式においての差が大きく見られたことについては、市全体で「書くこと」に焦点を当てて指導してきた成果が窺えるところであります。正答率分布では10問、11問の正答の部分の棒グラフが飛び出ており、7割～8割正答できている児童が多いことがわかります。

次の5ページをご覧ください。調査問題ごとに課題が見られた設問を各調査結果の後ろに付けております。ホームページ上では拡大して読むことができますが、このままでは文字が小さく読み辛いので、本日は別添にさせていただいております。別添資料をご覧ください。この設問は、面ファスナーのくつつく仕組みについて、何をヒントにしてどのような仕組みのファスナーを作ったかを説明するというものです。面ファスナーの仕組みは問題文下にある点線で囲んだ四角形の中の図で示されているのですが、この部分を文章で説明できていない児童が多くいました。必要な情報を図表から読み取り、それを表現するという力に課題があるということがわかります。

6 ページは算数になります。平均正答率は「全体」の他、学習指導要領の領域の「変化と関係」や評価の観点の「知識・技能」、短答式の問題形式で全国及び大阪府を上回っています。ただ、先ほどの国語でありましたように、「データの活用」については、やや課題が見えます。そのことは次の7ページの課題が見られた設問にも表れております。別添資料をご覧ください。これは図書室で本をあまり借りていない理由について、5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の割合の違いが一番大きい項目と、「あてはまる」と答えた5年生と6年生の割合の%を答える問題なのですが、両学年の違いではなく一番割合が多いエの項目を選んで誤答になる児童が多く、表のデータの特徴を正しく読み取る力に課題が見えます。

続く8ページからは中学校になります。まず国語ですが、平均正答率は学習指導要領の領域の「話すこと・聞くこと」は大阪府とほぼ同値でしたが、それ以外は全国及大阪府より低い結果でした。同一児童生徒集団による経年比較では、「読むこと」と「書くこと」が特に小学校6年次より下がっていることがわかります。正答数分布からは、3ページの分析と同じく、正答数2問～5問の下位層が多く、11問以上の上位層が少ないことが見て取れます。

続く9ページは課題の見られた設問になります。別紙資料をご覧ください。これは夏目漱石の「吾輩は猫である」の文章中にある「反対の結果を呈出した」という部分の様子がわかる部分を文中から抜き出すというもので、設問で言えば問いの三になります。正解はそのすぐ後ろにある「彼は喟然として大息している」か「黒」の発言の後の「すこぶるおこったようすで背中の毛を逆だてている」を抜き出せばよいのですが、「吾輩」の意図の反対である「黒」の様子を読み取れておらず、約3割半の生徒が誤答し、1割を超える無解答がありました。

10ページは数学になります。今回の調査の中で最も課題が大きく、全ての区分で全国及び大阪府を下回っており、特に学習指導要領の領域の「図形」や「数と式」の領域に関きがありました。正答数分布の棒グラフにおいても、左側に飛び出した部分があり、右側にくぼんだ部分が見えることから、国語と同じ傾向があるのがわかります。

11ページは課題の見られた設問になります。再度別紙資料をご覧ください。この問題は図の四角で囲んだ4つの数の和が4の倍数になるかどうかを証明するというものですが、そうでないかと仮定し、それが成り立つことを説明する力を問う問題になります。本市は約半分の生徒が誤答し、さらにその半分の生徒が無解答になっており、授業の中においてもこの問いのように、自身の考えが成り立つかを考察し、更に説明するような活動をもっと取り入れていく必要があると思われます。

12ページは「書く力の育成」を重点項目として取り組んだことについての検証になります。まず無解答率の推移ですが、小学校は年々減少傾向が見られ、中学校はこれまで小学校より多いながらの緩やかな減少傾向だったのですが、今回は平成27年以降最も多い割合でした。「書くこと」の領域における正答率の推移については、大阪府を1として比較しますと、小学校では平成29年以降は大阪府を超えており、今回は平成27年以降で最も良い結果でしたが、中学校は反対に最も良くない結果であり、大阪府を下回りました。

「記述式」問題における正答率についても、「書くこと」の領域と同じ傾向が見えます。今回中学校での課題が多く見られたことについては、現在各学校でも検証しているところですが、先ほどの国語の課題のある問題でも説明させていただいたように、文章から適切な内容を正しく読み取る能力に課題があることは、本市の学力向上対策委員会においても意見が出ているところであります。読み取りできていないことは、理解の不十分さにつながり、よくわかっていない状態だからこそ間違っただけを書いたり書けないということにつながると思われまます。また今回受験した中学校3年生は、昨年約3カ月の臨時休業期間を経験しております。内容が難しくなる中学校2年生という時期に長期間登校できなかったことは、授業再開後に夏季休業の短縮などで必要な授業数を確保したとはいえ、どうしても急いで学習内容を進めざるを得ない状況もあり、そのことが影響している可能性もあるのではと推察しているところです。つきましては、この12ページの下四角に囲んだ部分を含め、中学校の課題に対する考察を追記した形で公表しようと考えております。

13ページの児童・生徒質問紙調査のクロス分析つきましては、「基本的な生活習慣等」「学習習慣、学習環境等」「主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に関する取組状況」の3つの観点で、教科の平均正答率が高い傾向にある回答をまとめております。本市の状況については次の14ページからになります。まず基本的な生活習慣等で、普段のゲームに要する時間は、前回同じ質問があった平成29年度に比べて、小中学校ともに増加しているのがわかります。学習習慣、学習環境等では、平日及び土日休日の家庭学習の時間については、過去に同じ質問があった時と比べて、全体的には少し増加が見られますが、全国と比べて「全くしない」や「1時間未満」が多く見られ、家で自分で計画を立てて勉強する子どもについても少ない傾向が見てとれます。

15ページの主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況に関わる3つの質問については、小学校において前回調査と同質問があるものにつきましては、肯定的回答が増加しているとともに、全国よりも「あてはまる」と回答している割合が高いと言えます。中学校においても前回調査と同質問があるものにつきましては、肯定的回答は増加していますが、全国と比較するとまだ課題が見えます。

16ページからは教科の質問で、特に算数・数学において「問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」という問いについては、小中学校ともに前回調査より改善傾向があり、小学校の肯定的回答は全国を超えています。今回にのみあった「授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていますか」という問いについては、小中学校ともに全国より肯定的回答は低く、思考をノートに記録するという習慣づける必要があると思われまます。

17ページは現行の「かしわらっ子はぐくみプラン」第2期柏原市学力向上3ヵ年計画についての概要をまとめております。

18ページは、柏原市教育委員会と学校の今後の取組みの方向性と家庭にお願いすることについて記載しております。段組みの修正は当然のことながら、先ほども申し上げましたとおり、「書く力」の育成の部分につきましては、文章から適切情報や必要な情報を正し

く読み取る力の育成や、「書く」機会を多く設けるだけでなく、「書く」内容の充実についても追記して公表したいと考えております。

最後の19ページはこれまでの本市及び教育委員会の教育計画の一覧と、教育振興基本計画とかしわらっ子はぐくみプランにおいての成果指標についての結果でございます。本調査の結果分析も含め、これまでの取組みについて検証し、次年度には新しく教育振興基本計画とかしわらっ子はぐくみプランを策定いたします。市内各学校の分析につきましては、現在学校にて作成するよう指示しております。それをもとに学力向上推進委員会等とおして、改善のための取組みに対して支援・指導をしていきたいと考えております。長くなりましたが報告は以上でございます。ご審議よろしくお願いいたします。

新子教育長： 令和3年度全国学力・学習状況調査についてでございます。ご質問等いかがでしょうか。

田中委員： 2ページのところで、それまで右肩上がりであったところが、がたっと落ちてしまったということで、急に先生が病気でお休みされたとかそういう理由があったのでしょうか。まだこれから分析されるとは思いますが。

新子教育長： 全体的な話であって、どこかが突出しているわけではないです。

石田次長： 学務課から全ての情報を得ているわけではありませんが、長く先生が休まれたということはないと思います。

山崎委員： 次長のご説明でとてもよくわかりました。いくつかお聞きします。3ページ小学校で低位層が減少して、上位層80%以上が増加していると。良かったな、頑張ってくれているのだなという印象があります。中学校も頑張ってくれるでしょう。あとのところでも出てきますが、家庭学習、宿題も含めて、基本的な生活習慣をしっかりしないとなかなか学力は上がらないと考えていて、低位層の中で塾に行けない子、行かない子といった子ども達がいると思います。そういった子ども達にこの為にスタディアフタースクールというシステムがあって、そういう子たちがここで宿題をやると。それがSASの効用だと思います。ぜひSASを活用いただきたいと思います。

15ページ。調査では小中ともに上から1つ目も2つ目も授業で工夫して発表していたかという設問に対して。増えているんですね。自分から取り組んでいたかということについても増えているんですね。これは先生方が授業で子ども達を動かしている。授業を活性化しているということが良く表れているなど大変喜んでおります。学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますかという質問は非常に抽象的で、私でも回答に困るなと思います。いずれにしても授業で先生方が子どもを動かしていると喜んでおります。

17ページ行きます。1.の繋がりのある学びの中で取組②授業研究会での指導助言とあるんですが、指導主事の先生方の学校への招へいというのは増えていますか。減っていますか。教えてください。ALTの今年度の配置についても一度数を教えてください。2番のビジョンのある研修。経験の浅い教員を対象としたフレッシュ研修の実施、次の教育委員会のところでも出てくるんですが、良いネーミングですね。ぜひ授業の上手い先生の授業を実際に見せる。講義とか座学ではなく見せて研修をやってほしいなという思いです。

3の広がりのある連携。読書習慣の定着ですけれども、読書は学力の基本だと思いますね。読書が好きな子が増えてほしいし、たくさん本を読んでほしいと思います。こういうのもとても大事だけれども、授業の中で先生が本の面白さや、読書の大切さを指導する。そして先生が本を紹介する。こういうことが僕らの経験でも心に残っています。そういうことがとても大事だろうと思います。18ページ。2つ目の○学校における今後の取り組みですが、全国学力・学習状況調査の分析結果を授業改善や各取組みに活かす。それぞれの学校が本気で取り組んでくださるよう指導をお願いします。13ページのクロス分析。十分理解して、活用して、状況調査の分析を活かして本気で取り組むよう指導をお願いします。最後の○家庭をお願いすること。本当にその通りですよ。強くお願いしてもらいたい。教育委員会もそれぞれの学校もお願いしてもらいたいと思います。それから19ページ。先ほどからもお話がありましたが、教育委員会も目標値を1以上にすると頑張ってきたわけですが、前年度小学校算数は1越えました。今回国語も1を超えたと。目標を達成できた。非常に良かったと思います。中学校も頑張っていただけたらと思います。ぜひ頑張った学校は校長によくやったと褒めてやっていただきたいと思います。そこに到達できなかった学校も課題はあるとは思いますが、そこを悪くいうという事ではなくて。頑張ったところは褒めてあげてください。お願いしたいと思います。以上です。

石田次長： まず指導主事の指導助言については大変増えています。しょっちゅう出て行ってくれています。例えば時間を短縮いただくようご配慮いただいたり、回数を制限させていただいたりするほどです。ALTは例年と変わらず5名配置しております。

山崎委員： 中学校で5名ですか。

石田次長： 小学校も含めてです。フレッシュ研修については、コロナの事もありまして、フレッシュ研修という形ではできなかったのですが、経験の浅い教員を出来るだけ参加できるように研修を開催しております。読書習慣については委員おっしゃられる通りでございますし、司書についても全校配置になりましたので、活躍いただいております。

山崎委員： ありがとうございます。

田中委員： 今年の柏原市の新採は何人ですか。

石田次長： 10名程度かと。

田中委員： 今年は大学卒すぐであればコロナの影響で教育実習などの実地経験が少ないので指導していかないといけないかと思います。今年の新採についても同様だと思います。大学でも対応していますがよろしくをお願いします。

石田次長： ありがとうございます。

新子教育長： 新規採用については講師の経験者も多かったように記憶しています。この2年間はコロナの影響で、山崎委員おっしゃられたSASについてもできておりませんので、状況を見ながら来年度はしっかりと状況を見ながら取り組んでいきたいと思っています。

西村委員： 読むことが少し弱いというのは全国的な傾向もそうですので、特に柏原市がすごく特別という事ではないと思います。小学校で読むこと、書くことが伸びてきて、中学校でじっくり考える時間が今回色々取られて、結果的には例えば40%の平均値の子たちは繰り返し読みこむことが必要な子たちの学習機会がやっぱり少なかったという事は影響

があったのかなと推察するのですが、それがこれから正常な生活に戻っていく中で取り返していけるのかとか、ICTの活用等は期待して見て行きたいと思います。あと例えば不登校の子が増えたからとか、そういう影響がありそうではないということはないですか。

石田次長： ないと思います。

新子教育長： コロナで不登校が増えたということはないと思います。年々増えてはいますが。

近藤委員： 小学校では書く、読む力が着実に身についてきているなど感じられて嬉しく思います。中学校は3年生では同一集団経年比較がとても気になります。去年はいつもとは違う1年でしたが、中学校2年生で何があったのかなと。家庭的にもコロナの影響も気になります。クラブは十分できなかったですけど、それで余裕ができた時間の多くがゲームやスマホに取られているようにアンケートから見て取れて悲しいかなと思います。無回答率も高く、学習意欲がちょっとなくなってきているのかなと感じました。中学校3年生ですので、受験に向けて教室ではピリッとした雰囲気かと思いますが、先生方にはやる気の出る、明るい前向きな雰囲気作りをお願いしたいと思いました。

石田次長： ありがとうございます。学校の様子を見て、例えば授業が落ち着いていないということであればこの結果もわかるのですが、非常に落ち着いて聞いているんですね。状態としては良いと。ただ落ち着いて聞いているから良いという事ではなく、表面的なことだけではなく課題解決してまいります。

田中委員： A問題、B問題がなくなって一本化されたということですが、傾向的にどちらかと言えばどちらに近いのでしょうか。

石田次長： 感覚的にはどちらかと言えばB問題かと。

田中委員： そうですね。前回もB問題の方が低かったですね。そういう傾向があるのかと思ひまして。

新子教育長： 他にご意見等ございますか。

山崎委員： 新聞によると、1点2点の違いなんですけど奈良県より大阪の方が小中ともよくなってらるんですね。大阪の方が頑張っていると。みんな胸を張ってやってくれたらいいと思います。

委員全員： なし。

新子教育長： ないようでございますので、議案第36号について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員： 異議なし。

新子教育長： それでは、議案第36号令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の公表内容については原案どおり承認することにいたします。引き続き議案第37号について指導課石田次長から説明をお願いします。

石田次長： 議案第37号令和3年度すくすくウォッチの結果の公表内容について指導課よりご説明申し上げます。この調査は、大阪府教育委員会が本年度から新たに始めたもので、子どもたちに、各教科の学力に加え、ことばの力や文章や情報を読み取り考える力、様々な情報を活用する力、そして「見えない学力」と言われるねばり強さや好奇心などを育む



ことをねらいとしており、小学校5年生を中心に、一部を6年生に対しても実施いたしました。

まず1ページは本テストの実施の概要です。特徴としては、2. 実施内容にありますように、国語、算数、理科という教科の調査とアンケートに加え、教科横断型問題である「わくわく問題」が新たに実施されたということです。この「わくわく問題」の具体的な内容については後で説明いたします。実施日は本年度、全国学力・学習状況調査と同日にいたしましたが、規定では定められた期間内で選択ができるようになっております。調査問題や解答につきましては、大阪府教育庁のホームページの下記のURLに掲載されております。

2ページは全体的な結果になります。6年生が同日に全国学力・学習状況調査を受けておりますので、教科の調査は5年生のみとなります。平均正答率を見ますと、国語と算数は大阪府を上回り、理科がやや下回るという結果でした。右の図は各教科の平均正答率をグラフにしたものです。国語の基準値を指標にしているため、算数や理科非常に悪い結果だったように見えてしまいますので、教科ごとのグラフに変更する予定です。わくわく問題については5、6年生ともに同じ問題を使っての実施になっております。結果は5年生は大阪府と同値、6年生はわずかに下回るという結果でしたが、6年生が5年生を約10%上回っており、日常の活動の経験からの学びの積み上げが感じられる結果となりました。

3ページは5年生国語の結果になります。ほとんどの項目で大阪府を上回り特に「書くこと」が良好であることがわかります。正答数分布は大阪府とほぼ同じ傾向ですが、20問全問正答の児童が大阪府を5.9%上回っています。課題の見られた設問は、ローマ字を読むことと、ことわざの意味を答えるというものですが、「善は急げ」の意味を間違っただけで捉えている児童が半数近くいることから、日常生活の中で様々な言葉に触れ、その読み方や意味を確認していくような活動が必要だと思われます。

4ページは5年生算数の結果です。全体的にほとんどの項目で大阪府の平均を上回り、特に「データの活用」に良好な傾向が見えます。学習指導要領の領域で見ますと、「図形」にやや課題があり、課題が見られた問題においても、長方形の周囲の長さを求めるのに、縦×横という面積を求める公式を当てはめて、4の128cmと誤答している児童が半数以上いることから、公式の意味や図形の特徴を正確に身につける必要があると思われます。

5ページは5年生理科の結果です。全体としては大阪府をやや下回りましたが、短答式や記述式問題形式の正答率は上回っています。正答数分布からは、正答数が2、3問の低位層の割合が大阪府より多いことが見て取れます。課題の見られた設問は、このままでは見づらいため、別紙資料をご覧ください。この問題は太陽の位置と校舎の影のつき方から、各花壇の温度を表すグラフはどれかを選択するというもので、正午と午後2時という示された図から、他の時間での太陽の位置や影のつき方を推測し、そこから温度の変化を考察しなければならず、授業においても、示された資料を元に、それがどのように変化するのかを考えさせるような活動を積み重ねる必要があると思われます。

6ページは教科横断型のわくわく問題の結果で、5年生と6年生を合わせた平均値で比

較しています。全体的にほとんどの区分で大阪府の平均を上回っていますが、「図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える」という区分にはやや課題が見えます。

7ページは課題が見られた設問になります。別紙資料をご覧ください。これは動画の会話とインターネットで見つけた表から、ぶどうのランク分けをフローチャートのような図に示すという問題で、これまでの教科の問題とは異なり、正答するには、与えられた情報を関連付けて、順序良く論理的に考える力が求められます。本市の正答率は25.7%ということで、約7割半の児童は不正解であったことから、これから授業において、教科横断的な視点で、様々な情報を関連付け、論理的に考えることが必要な場面を設定していくことが必要だと思われます。

8ページはアンケート結果になります。こちらも5年生と6年生を合わせた平均値で示しています。「その時間のめあてを意識して学習している」や「その時間に学んだことについて、ふり返りをしている」という問いについては、本市では授業づくりの核として「めあて」と「ふり返り」を大事にするよう各学校で取り組んでいることもあり、肯定的回答はともに大阪府を上回っております。次のノートの書き方についての問いでは、黒板に書かれたことは写していますが、大事と思ったことや、自分の考えを書くことについては、肯定的回答が下がる傾向が見え、先ほどの全国学力・学習状況調査のアンケートでも同様の傾向が見られています。最後の「家庭学習」に関する問いについては、ずっと本市で課題となっていますが、宿題を除いて自分でやりたい学習内容を考えて家で勉強しているという児童が多いのは望ましい傾向だと思います。整備したタブレットPCには個人の学習履歴が蓄積され、個別最適化した学習ができる機能が備わっていますので、今後はそれを子どもたちの自主学習の定着のために活用していきたいと考えております。

最後の9ページは、教育委員会と学校の今後の取組みの方向性と家庭にお願いすることについて記載しております。小学生を対象にした調査ですので、家庭にお願いすることの②にある中学校生徒の表記は削除することに加え、全国学力・学習状況調査と同様に、「書く力」の育成の部分につきましては、文章から適切な情報や必要な情報を正しく読み取る力の育成や、「書く」機会を多く設けるだけでなく、「書く」内容の充実についても追記して公表したいと考えております。報告は以上でございます。ご審議よろしくお願いたします。

新子教育長： 今説明がありました。ご意見ご質問ありましたらお願いします。

山崎委員： 9ページに今後の取組みというのがあるのですが、情報モラルについて学べる研修を実施し、保護者に啓発していくと。全国でもネットいじめというのがあって、悲惨な結果になったということもあるので、柏原市ではそういうことが絶対にないように十分に注意していただくようお願いします。

石田次長： 委員がおっしゃられたとおり、非常に大きな問題で議会でもご質問いただいております。先日の校園長会でも改めて情報モラルの考え方について私から説明申し上げたところでございます。

新子教育長： 他いかがでしょうか。

近藤委員： わくわく問題を全部ホームページで見ってみました。いろいろな能力を必要とする問題、身近な問題があつてなかなか面白いなど見ていました。授業での新聞づくりや班でのまとめの発表の力が活かされるんだなと思いました。説明いただいたように5年と6年が同じ問題をやって、6年生に成長が見られるというのは本当に頼もしいなと感じました。ありがとうございます。

新子教育長： 他にいかがでしょうか。

西村委員： 全国学力学習状況調査とすすくウォッチの狙いの違いを教えてくださいませんか。

石田次長： すすくウォッチは、先ほど冒頭で申し上げましたように、教科プラスわくわく問題で学びに対する意欲であつたり、今までテストで測ることができなかったものを測るというのが大きな一つの目的となっています。

新子教育長： 狙いはわくわく問題。横断的な部分ですね。

中平教育監： 今回ははじめて府のほうが始めましたので、周知のリーフレットが府の方から案内がありました。

西村委員： 保護者の方にそのあたりが正確に伝わるといいかなと思います。

近藤委員： はぐくみテストとの兼ね合いは今年度どうでしょうか。

石田次長： 今年度については、はぐくみテストは昨年度同様小学校3年生から6年生を対象に実施しようと思います。5年生はテストが増えた形ですけど、今後このすすくウォッチの中身の分析し、傾向を見ながら次年度以降は検討しないといけないかなと思います。

新子教育長： 考えていかないといけませんね。他にございますか。

委員全員： なし。

新子教育長： ないようでございますので、議案第37号について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員： はい。

新子教育長： それでは議案第37号令和3年度すすくウォッチの結果の公表内容については原案の通り承認することといたします。つづきまして議案第38号について図書館東野館長から説明をお願いします。

東野館長： 議案第38号柏原市図書館協議会委員の任命についてでございます。図書館法第15条及び柏原市図書館協議会条例第3条の規定により、次の通り任命する。次のページをお開きください。任命予定者の名簿でございます。令和3年4月1日付けで任命した者のうち、推薦団体において異動がありましたので図書館法第15条及び柏原市図書館協議会条例第3条の規定により任命するものでございます。新任委員と推薦団体は議案書のとおりです。任期年月日は本日令和3年10月20日とし、委員の任期については前任者の残任期間であります令和5年3月31日までとなっております。ご審議賜りますようお願いいたします。

新子教育長： 今説明がありました。ご意見ご質問ありましたらお願いします。

委員全員： なし。

新子教育長： ないようでございますので、議案第38号について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員： はい。

新子教育長： それでは議案第38号柏原市図書館協議会委員の任命については原案の通り承認することといたします。本日の議事案件は以上でございます。

(磯部スポーツ推進課長から青谷運動場について報告)

以上で、第10回定例教育委員会会議を閉会いたします。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

柏原市教育委員

次のお願い1の「2」新規採用ですけど、新規採用者を取る時に市内で親子、兄弟は出来るだけ採らないほうがいいと思います。こんな小さな市ですので、目配せをしていただければと思います。